

## 第3部 資料

有田和正先生の講演（「教師を目指す学生・院生に贈る言葉（そして、若手教員への助言）」）は平成24年9月29日に愛教大の411講義室で開催されました。有田先生よりお許しをえて、講演内容を録音し、その後、原稿にしたものを、有田先生ご自身に校正いただきました。文中の（笑）等は、会場の反応を表現したものです。

教育実習における指導案指導（附属養護学校と附属岡崎小学校の例）は、教育実習の事前指導のいっそう改善するための資料として、両附属校の先生方のご協力をえて、取材し、作成しました。

平成 24 年 9 月 29 日 (土)

### 有田先生講演会記録

皆さんこんにちは。やっぱりここにくると元気がでます。昨日、一昨日まで網走に行ってきました。刑務所ですね。刑務所に入っていたわけではなくて(笑)、刑務所を調べに行ったんです。今日は、13年ぶりに、ここをやめて13年間どういう学校に変わっているだろうかと思って、楽しみにして来ました。あまり変わってないですね。学生の明るさは相変わらずです。

東北は今暗いんですよ。福島県から北の方へ行って、先生方を笑わせるのは義務ですよ。もうそれをやらないと福島県の先生は特に疲れていまして、何とかして笑わしてくださいとの教育委員会からの要望で。だから教育問題ではなく、先生方を何で笑わせてあげようかということが問題なんです。

網走に行ったら網走の先生も暗いんですね。刑務所の関係でしょうか。やはり気候、風土でしょうね。

まあそれはともかくロンドンオリンピックが終わりました。日本は38個のメダルを取りましたけれども、僕はロンドンでは絶対にメダルの数は減ると予想していました。それはなぜか。あそこは料理がまずい。イギリスに行ったことがある人はわかると思いますが、あそこを一週間いれば確実に1キロ痩せて帰る。そういうところなんですよ。不味いから太るわけがない。それから選手はあんな不味い食事を食べたら元気になるわけがないから、日本人は絶対負けるだろうと思っていたら、メダルを38個も取ったわけですよ。あれっと思ったら選手村は世界中から料理人を集めて、おいしい料理だったらしいです。聞きましたら、とってもおいしかったという話でした。私の自宅すぐ近くに日体大があるんですね。日体大からオリンピック選手30人がでたんですね、その選手たちの報告会があって、やはり食べ物が大変おいしかったとのこと。

では、なぜイギリスは料理が不味いのでしょうか。そういう疑問を持った方いませんか？疑問を持たないようでは、いい先生になれませんね。そういう疑問を持つということは、一番大事ではないでしょうか。私もオリンピックそのものよりも、なぜ料理が不味いかに興味がありました。イギリスに2度行ったのですが、2度とも不味かったです。昔から。それで調べましたら原因がわかりました。その原因は産業革命が世界一早かったから。産業革命が世界一早かったから料理が不味くなった。通常では結びつきませんね。これを結びつけるのです。なぜか。産業革命で労働力が足りなかった。労働者が足りなかった。それでみんな労働に借り出されて料理に関心を持つ時間がなかった。で、産業革命以来料理が不味くなった。もっともそれ以前に料理がおいしかった保証はないんですけどね。産業革命以前に食べていた人は、今は生きていませんからわかりませんが、産業革命によって料理が不味くなった。こういう結論が出てますね。そのような結論は、私が出したんですけど。ちゃんと資料がありましてそういうことがわかりました。

もう一つロンドンといたらとても霧の深い街でしょ。霧の街でしょ。霧が深くて前の人が見えない。僕はロンドンよりも霧の深い街を知っています。それがあると聞いたので、その街を調べに行きました。そしたら看板がありまして、その看板があまりに霧が深くて読めなかった。それでなんと言う街かいまだにわかりません(笑)。オリンピックは面白い話がいっぱいありまして、まあオリンピックの話はそのくら

いにしとかないと時間がなくなりますから。

少し前には草食系男子のことが話題になっていました。今は草食系男子から、ロールキャベツ系男子とアスパラベーコン巻き男子という言い方になっています。みなさんご自身はどちらでしょう。アスパラベーコン巻きか、ロールキャベツ系なのか。ロールキャベツはまわりがキャベツで中は肉でしょ、非常に優しくてやわらかそうだけど、中は肉でしっかりしている。見かけによらずしっかりしているのがロールキャベツ系男子。もう一つのアスパラベーコン巻きは、周りはベーコンなのでしっかりしているなあと見えるけども、中はアスパラ。中身はあまりない。そうすると、どちらがいいんでしょうか。

昔、糖尿病の検査をするときは、おしっこを舐めて検査をしていた。ご存知ですか。ここにあるペットボトルの水が自分おしっこだとします。白いおしっこです。これを舐めて検査した。で糖尿病の検査法を教えます。いい医者になるには鋭い観察力と勇気が必要です。私がやった通りによく実行してください。たっぷりおしっこを付けて、さっと舐めました。さて白い巨塔のトップがやったんですから、これは30人の学生たちは舐めざるをえませんね。死ぬ思いで舐めたのでございます。30人終わりました、すると先生は君たちは勇気という点では全員合格です。しかし鋭い観察力という点では全員不合格です。なぜならば私はひとさし指を付けて、舐めたのは中指でした」(笑)。今年の3月8日に札幌医科大学、そこに講演に行きました。みんな大学のお医者さんです。そのお医者さんにその話を一番最初にしまして、糖尿科の先生に手を挙げていただき「今の私の話は本当にあったのでしょうかどうなんでしょうか」と聞いたらその先生は、「はい、その通りです」と答えて、「そのように実行しました」と話を合わせてくださいまして、それは、それは大きく沸きました。おしっこの話で最後まで続きました。東北に行ったらこの話をしなければならぬですね。

とにかく1時間に一度も笑いのない授業をした教師、あるいは1時間に一度も笑いのない講演をした教師は終了後ただちに逮捕する。それを新しい学習指導要領に入れろと私は30年運動をやっているんですけど、入りそうはありません(笑)。何とか入れようと思っています。

あの今日はここに書いてあるように、「教師を目指す学生に」ということなんですが、前にいる先生方はベテランの方がいらっしますが。．．．【ペットボトルの水を飲んで】今日のおしっこおいしいですね(爆笑)。それで私は今からまず学生たちに教えたいんですが、引っ張りだこの学生っているんですね。

まさかと思いましたが、リクルートの人に聞いてみました。どういう人がひっぱりだこですか。第一が語学ができる。英語とは言いません。とにかく第一番は語学ですね。さてその語学ができる人ですけども、外国語を一つ、日本語と外国語の二カ国語できればいいわけですね。その語学ができればいいかといえば、それだけではいけない。語学ができるんだけど話す内容がないって人が半分いるそうです。半分はですね、何を話していいかわからない。言葉は知っているんだけど、話す内容がない。これではいくら語学ができて意味がないわけですよ。これが半分いるそうです。リクルートの人の話ですよ。話す内容がない。それではイーオンにいくら通ってね、語学を勉強してもお金を出しても意味ないですね。どうすればいい。

2番目は日本語ができる人。つまり今の若い学生はまともな日本語ができない。それはね、よく私も出会

います。ロールキャベツがどうかわかりませんが、話が通じないんです。そんな人には「あなたはどこの国」って聞くんです。すると「どこの国？... 私青森出身ですけど」(笑)。日本語が変だよって皮肉っているのに、青森の国、駿河の国というように勘違いしているんですよ。そういう正しい日本語をしらない。これが非常に多い。語学ができない人より多いんじゃないか。びっくりであります。学生たちと接するとそれは確かに感じますね。それで大事なことは語学ができて、日本語ができて、そして第3に日本文化が語れるということですね。日本文化を語れない人が多い。そうするとまず日本の歴史でしょ。まず尖閣列島、尖閣諸島ですね、あれは歴史的に日本の領土です。竹島も日本の領土です。それから北方領土も日本の領土です。それをきっちり説明できますか。歴史的に。年代から。中国の外務大臣が一昨日、国連で「日本が1895年の日清戦争の終わりごろ、尖閣諸島を盗み取った」という言葉を使いましたね。けしからんと思います。正しい歴史を知っておればこそ、けしからんと思える。そういう文化がしっかりとみられない。

京都にですね、1488の寺があるわけですが、数字はいいですね、知っていても何の役にも立たない。でも知らないよりかはいいでしょ。1488あるんですよ。でその中にその寺の特徴、こういう特徴があるということをごだけ語れるか。では門前町が一番しっかりしている寺はどこですか、京都で。清水寺です。何軒ありますか。僕は必ず数を調べます。きっちり40軒ある。これは憲法第9条で決まってる。というのはまったく嘘です。そういうことはあり得ませんが、40軒ある。もし1軒が失敗して潰れますね。そしたらすぐ翌日、次の店が入るんです、それをきっちりやっている。ですから常に40軒あるんです。これは門前町として京都ともう一つ、浅草、浅草寺の前にありますね。これは日本一の数の多い門前町であります。あそこは80軒あります。ちょうど2倍ありますね。この80軒も1軒潰れたらすぐ次が入る。その準備が常にできている。あそこもかなり入れ替わりがあります。違う店が入る。しかし数は歯が欠けるようなそういうことがないようにきっちり街づくりをやっている。



門前町はいつごろからできたのでしょうか。どういうことからできたんでしょうか。そういうことを日本の歴史を学習するとき、講義で歴史の先生はやりませんよ。私も今歴史をやってますけど、あのそこまでやりませんよね。しかし雑談ではやります。

えーこういうことが面白いからやっているんです。やっぱりなんといっても歴史ですね。京都を知らなければ、日本文化を知っているといえない。電車の向かいにアメリカ人が乗ってました。日本語がとっても上手

なんですね。それで、「どこに行くんですか」といったら、「奈良、京都を回るんだ」と日本語で言いましたから、私にも分かりました。日本語で「京都に行って何をやるんですか」と言ったら、「お寺 Temple」と言うんです。英語がわからないと思って単語で言うんですね、

「お寺に行くんですね、京都は1488のお寺があるんですよ、そのどこに行くんですか？」

「え、そんなにあるんですか、じゃあどこにいったらいいんですか？」

「そりゃ行きたいところにいったらいい。」

「一番推薦するお寺はどこですか？」

「それは何と言っても今は清水寺がいいですね」

もうちょっとすれば紅葉も綺麗で... 綺麗といったら今日、名鉄に乗って知立まで来たときに今年初めて彼岸花を見ました。今まで見ていない。彼岸花というのは土の温度が23度に下がりますとひゅっと出てきます。そういう性質があります。ですからあれは地中温度計という名前がついています。地中温度計、ですから芽が出たときに温度計を突っ込んでみると分かります、23度。山の斜面だったらどちらが先に咲きますか？上のほうですか、それとも下の方ですか？上の方ですよ。上の方が温度が早く下がるでしょ。上のほうから咲いて段々下のほうへ行くわけです。それを棒を立てに刺して何月何日と札を立てるんですよ。そうするとどういう順序でその土の温度が下がっていったかが分かります。それは生活科でやるか総合でやるか、歴史でやるか。歴史でやるってことはないですが、何らかの教科でやるかですね。いずれにしても子どもたちは極めて喜びます。この実験は香嵐渓っていうのがありますね、愛知県の、その香嵐渓のちょっと東の方に小さな学校がありますが、その学校で実験したんですよ。子どもは感動しました。これが体験ですよ。体験的に学ぶということ。

文化をしっかりと学ばせるんです。やっぱり奈良京都に一年に一回くらいは行って欲しいと思います。ぶらぶらと歩くだけで違いますね。私今日これが終わったら京都に行くんですが、夕方からね、明日京都で仕事があるんですが行ったら必ずどこかを見て何かを学ぶ。京都は漬物がおいしい。三つありますね。しば漬け、これは一番古い。今NHKで平清盛やってますね、平清盛の子どもに徳子がありますね。あの人が天皇の嫁になってお子さんができました、壇ノ浦で源氏から引き揚げられて助けられて京都の大原に居を構えた。そしたら大原の人がしば漬けを持っていった。「こんなおいしいものがあるんですね」と言ったとか言わないとか。それが1185年の事です。ですからしば漬けは1185年から続いている。歴史がはっきりしている。そのわりに安いでしょ。二番目はすぐき漬け、三番目は千枚漬け、この三つが京都の漬物でしょ。この三つがよく売れてるんですよ。で京都の漬物がおいしい理由は何か。そういうことをアメリカ人に語ったんです。「まず京都に行ったらお菓子を食べないで、千枚漬けを買きましょう」と言いました。一生懸命聞いてました。京都はお菓子がおいしいと聞いてきたけど、お菓子よりも漬物がおいしいと電車の中で話しましたが、その人はおそらく漬物を買っていると思います。

そういう文化ですね、京都の漬物が日本一おいしい、しかもお土産として成り立っているのはなぜか、一番売れているのはお菓子ですよ。85パーセントがお菓子です。京都はお菓子多いですからね、和菓子屋さんだけでも165軒あるんです。全部午前中に売り切ってしまうんです。それから京都にいきますと、奈

良時代からのお菓子がありますよ。一回買って食べて欲しい。一番古いのは奈良時代です。それから伝わっているお菓子があるんですよ。すごいでしょ。私がいうことではないんですが。でもそういうことを勉強して、食べ物の話は今日話してみても、まったく知らない人、向こうに座っている人ですよ、横に立ってこうやって話しました。そういう生活に密着した話ができる。これはやっぱり語学ができるということ、日本文化が話せる、特に生活、生活を語れるといえば入社試験のときに、面接のときに主としてやっぱりこれを聞いてますね。質問に。学生たちは先生以外の職業に就く人たちはやっぱり日本文化を勉強すべきだと思います。

京都の漬物がおいしい理由はですね、二つあります。一つは野菜が1185年以来ずっと続けて工夫に工夫を重ねて、なぜ工夫を重ねたかという天皇がいたから、朝廷があったから、いい野菜の種が集まってきたから。それから外国からも遣唐使がもって帰ってきたから。それから外国の野菜もあります。そういう野菜が今23種類限定されているでしょ。京野菜として東京のデパートの地下に行きますと京野菜コーナーというのがありますね。それが売れてるわけですね。もう一つ大事なことは塩なんですよ。京都の漬物がおいしいわけは、今尖閣諸島の話をしてしまいましたが尖閣諸島の南の方に一番日本の西にあります与那国という島がある。全日空が飛んでおります。その与那国からは台湾が見えます。新高山がみえるんですね。その島にたった一棟工場があるんです。そこに授業をしにいったんですが、そのついでに校長先生が「5分でもいいから見て欲しい」。行った所はなんと塩を作る工場。燃料は何もない。全部太陽の熱で、天日で乾かす、風で蒸発させる、本当の天然の塩を作っている。あんな塩作りを初めてみた。それで僕は、「ちょっとその塩を分けてくれませんか。」

「ダメです」

「なぜですか」

「それは京都の漬物組合の塩を作っている。舐めるくらいだったらいい。」

そういう塩なんですよ。全部京都の漬物組合に納めている。働いている人は漬物組合の職員なんですよ。それを京都の漬物のおいしいところにさっと配することができたんですね。おおこれは漬物がおいしいのはやっぱり塩が決め手、そういうことを学んでおくと外国人と話すときに非常に都合がいい。

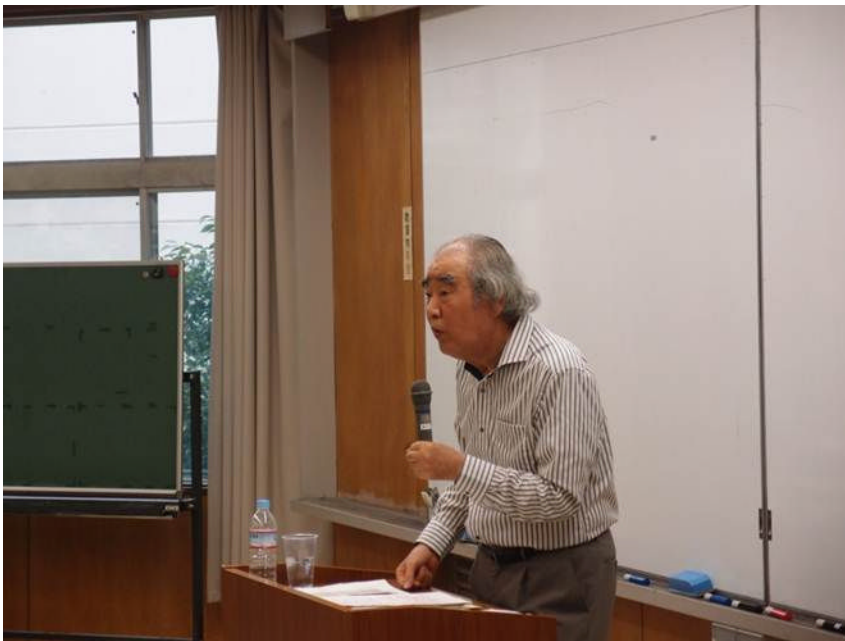
今外国の学生が一番多いのは、別府でしょ。別府にある立命館大学国際学部ものすごいですよ、別府の町、いろんな国の言語があります。別府はご存知のように一時はシャッター通りだったところにインドの学生がインドカレーの店を始めた。その他いろんな国の学生たちが別府で店を開いた。今までアルバイトだったが、自分で商売、店を開いた。それを尋ねて歩いた。温泉に入るより、その学生たちと話すことが面白い。是非別府に行ってください。

それからあそこは2300の源泉があります。源泉2300は世界一です。湯が湧き出る量はアメリカのイエローストーン国立公園が一番なんですが、別府の湯出量は二番目、源泉は一番。話があちこち飛びますけども。源泉というのは地獄めぐりってあるでしょ。あの地獄ってなんですか？先生が行くところ？あの地獄って、8つありますよ。地獄っていうのは源泉なんですよ。湯が湧き出るところを地獄というんです。これ面白いのはこれら全部個人所有なんです。個人のもの。そういう人たち8人が出資して、地獄めぐりという名前をつけて観光バスでぐるぐる回って協同してやっている。それがだんだん廃れてきて今は自分

で車でまわるんですよね。バスに乗って回るよりも自分の車で回っちゃうんですよね。ということで立命館の国際学部の学生たちはあそこで商売できないか、考えてるそうですが、とにかく 9000 人も学生たちが 3 月までに卒業して、世界に散ったんですね、外国人だけです。こういう大学の中に国際区みたいなものを作るべきだと思います。東北福祉大でそういうのをやりましょうと提案をしてるんですが、聞いてもらえないですね。

大学というのは本当に古臭い。私の知っている範囲で大学ほど古臭いところはない。大学で何を学ぶかって言ったら古く臭さを学ぶ。自分が大学にいてこんなことを言ったらいかんですが、本当に変わらない。変えない。それで学生に変われって言うほうが無理です。先生が「あなたが言えるのか？」ってことを、学生に向かっていってる。やっぱり先生自身が変わることがまず先。大学に僕はいろんな学生が入ってきたらグローバル化するじゃないですか。グローバル化ってなに？それはいろんな国の学生を集めればいいんですよ。そこでグローバル化できますよ。そこで自然に何語で話したら言いか、やっぱり英語だなあと分かる。そういう文化をしっかりと学ぶということが必要ではないでしょうか。

僕はそういう風に思いますけどね。それから歴史、地理、やっぱり地理も必要ですね。私が一番言いた



いの、4番目はですね、日本文化はいいとして、「情報持ち」、これが引っ張りだこだそうです。昔は情報持ちなんてなかった。今は情報持ちですよ。お金より、お金持ちは採用ならない。情報をどれだけ知っているかということ。例えば海外旅行に行きますね。海外旅行に行ったら、海外旅行にかかる費用を投資と見ますか、それとも出費と見ますか。あなたはどうですか？

出費と見たらだめなんです。外国に行くということは投資ですよ。情報を得るために投資するという考えに変

えて欲しい。投資ですよ。だから遊びに行くっていても、私は現在 28ヶ国に行っていますが、面白いのはイタリア。何回行っても面白い、なぜなら料理がおいしいから。イギリスは嫌。イタリアはどこでもおいしい。一番おいしいのはベネチアですよ。ベネチアの海鮮料理は世界一おいしいと思います。アメリカはわらじのようなステーキが食べられます。でも食べきれない。イギリスに似てますよ。料理のおいしいところ、シンガポール。タイは面白いところですね、教師は遊びに行くのは投資と考えて、それは自分に投資すること。特に学生は学割が使えるでしょ。学割が利くときに、国内を回ること。私は九州。福岡生まれなので、学生時代は 550 円で九州一周できた。それと同じことを JR 九州は 55 万円とって九州一周やるんです。僕は 550 円で回ったのに今 JR は 55 万円ですよ。わたしのところにも来ました。きてくださいと、

面白いですね。一回乗ってみようかなあと思うけど、見るところは大体見ました。すでに見た所に 55 万円だすのもどうかなあと思うんですが。そういう情報をたくさん取る。旅をするということですよ。旅は道ずれです。たいていお年寄りの横に座る。探して、そしてお年寄りはその土地について詳しいですから、その土地の情報を... じっと座って動かないで弁当ばかり食べてたらだめですよ。

弁当は、名古屋の駅では、何種類売っていますか。こんなの調べたらすぐわかりますよ。29 種類です。私はこの 29 種類、ここに 7 年間通ってる間に、全部食べました。名前も全部控えてあります。名古屋駅にはホームが何本ありますか。8 本です。名古屋駅には 8 本あるんです。その 8 本あるホームに、きしめん屋さんが何軒ありますか。12 軒あるんですよ。新幹線ホームが 2 本ありますが、あの 2 本の新幹線ホームに 2 か所ずつ、計 4 か所きしめん屋がある、あそこは 1 日に 1300 杯売っている。なぜか、おいしいからですよ。一番おいしいのは、3 番ホームに本店みたいなものがある、そこが一番おいしい。東京駅は、14 本ホームがあります。自分の土地のことをもっと知らなければならない。情報ですね。名古屋駅の地下街は日本一でしょ。あの地下街の壁がこうあるじゃないですか。あれは全部よくみたら、化石がいっぱいありますよ。あれ見て回るだけでも結構面白いですよ、名古屋駅にいったらお菓子ばかり見ないで、やっぱりそういうものを見て回る。これが大事なんじゃないですか。それから地下街ですから、安全が大事でしょ、そうすると今入った所から次の出口まで何メートル間隔で、安全の為の通路が地上に出ているのか。これも法律で決まっています。60 メートル間隔でちゃんとあるんですよ。出口がね。名古屋の駅を調べると一番よくわかる。私のかばんの中にメジャーが入っている。巻尺じゃないですよ、メジャー。1 メートル 50 センチしか計れないから、大変ですよ。これで計って。名古屋駅は面白い所です。そういう情報を、僕はね、やっぱり掴んでほしい。

日本の国土はまだ固まっていないですよ。そういう日本の領土の特徴を、それから風土、習慣、こういうものを学習する。領土と国土、同じですか、違いますか。違いますよね。学習指導要領では領土という言葉を使っています。国土という言葉は使っていません。領土と言うのは主権が及ぶ範囲ですよ。主権が及ばないところを領土とは言わないですよ。だから学習指導要領は、学習すべき日本の国土を領土と言います。国土の概念は広い。その中の領土ですね。そういう所をしっかりと学ぶということが大事だと私は思いますがね。それから言ったらきりがありませんが、

次はですね、何といっても、ひっぱりだこの学生の 5 番目はですね。これは面接官が聞く、決まったフレーズがあるみたいで、「あなたは今この本を読みましたか」と聞く本があるそうです。それは教えてもらえませんが。私が今持っているのは文芸春秋の 10 月号、これは尖閣諸島のことだけじゃなく、日本の領土について、識者がきっちり書いています。これはですね、文芸春秋出版会社は普段の 2 倍印刷したんですよ、それで昨日ね、電話して、どのくらい売れましたかときくと、「好調です」と、それが答えです。好調ですじゃ何冊かわからない。私の家の近くの本屋さんで聞いたら、そこはまあ 30 冊仕入れたそのお店は 60 冊仕入れて、10 冊余った。それで是非読んでいただきたい。そのことは今日プリント配ったでしょ。それを読んでいるかどうかが決めます。それをしっかりと読んでほしいなと私は思います。



65歳以上の高齢者が一人亡くなったら、図書館が1個つぶれるそうです。図書館を利用するのは、私みたいな高齢者ばかり、若い人はいかない。だから図書館は、高齢者が亡くなったときいたら、そこで閉めるそうです。そういうのがいまの日本なのです。しかし私は希望を持っている、今、電車に乗ったら、座席に7人座れるんですね。名鉄は分かりませんが、たいてい7人です。その7人がけの所にね、最近は2人、平均2人本を読んでいる。嬉しいですね。だれの本を読んでいるのかな、有田和正？(笑)この人偉いねって(爆笑)、7人中2人。ちょっと前には、みんなこうでした携帯、親指族、今はスマートフォンね、そればかりでしょ。朝、電車がいっぱい立っているんですね、こうして8時になったら、椅子を降ろして座っていいんです、降ろして座った途端にこうです【有田先生は携帯を操作する格好をなさる】。自然に、反応的にやるんですね。しかしその中の二人が本を読むようになった。本を読む若い人たちが増えた。嬉しいなと思います。今の大学生は月にだいたい0.3冊本を読みます。良く読みますね。すごいですよ、0.3冊。3か月で1冊ですよ。泣きたくくなりますよ。本屋がつぶれるはずですよ。本屋は1年に100軒つぶれてる。それでも三省堂の支店は54店舗あるんですが、ポンポン広がっていますよ。東京にも何か所もあります。本をたくさん持っているということですね。これは是非実行してほしいなと思います。

絶対読まなきゃいけないは、古事記、日本書紀ですよ。優しい子供向けに書いた本がありますから。山彦と海彦の話がありますね。兄弟で、道具を交換しました。そしたら、弟の方が、兄さんの釣りの道具をなくしますね、さてその釣り竿はどうなったでしょう。というのを面接官が、聞いたそうであります。その話分かりますか。読んだ人は分かると思うんだけど、読んでない人は分からないでしょう。それを端的に話して下さい。古事記、日本書紀それから、源氏物語、あれは難しい。でも現代日本語に翻訳しているのがありますから、本当に読みやすくなっています。400字詰め原稿用紙にすれば、2300枚です、2300枚、54帖ありますけど、だけど読めない事はないですよ。是非。もっと推薦したいものがある。これもおもしろいです。それから『さわっておどろく！点字・点図がひらく世界』、岩波のジュニア新書、高い本を紹介すると学生が買えませんから、私が紹介する本はすべて1000円以下、しかも、900円より安い、900円以下が、今売れるそうですよ。『化石の分子生物学 生命進化の謎を解く』これもおもしろい、これは760円ですよ。『ごきげんな人は10年長生きできる ポジティブ心理学入門』これ文芸新書ですね、720円。これは、どうでしょう、『セブン・イレブン終わりなき革新』これは日経ビジネス人文庫500円、値段を先に言った方がいいですね。『あらゆる小説は模倣である』、この本で小説作法が学べるんですね。これ800円、幻冬社で出てます。新書です。あといろいろありますけど、もし読みがいがなかったら、本代を私に請求して下さい。でも払いませんけど。さてですね。この5つのことがきっちり出来たら、教師としても合格じゃないですか。

語学、日本語ですね。教育学部の人には日本語ができる。私は英語ができないんですけど、外国旅行して苦労したことがない。私はニューヨークからロサンゼルスまで飛行機に乗ったんです、3時間。アメリカの飛行機のスチュワーデス、今スチュワーデスって言わないですね、キャビンアテンダントと言いますが、お年寄りで、かわいそう。こっちが介護しなきゃいけないようなキャビンアテンダントがサービスに来るわけです。私は「あなたそれでもよく頑張ってますね、それからなかなか美しいですね。」と片言の英語で言ったの(笑)。そしたら「オー、ワンダフル！」ってものすごく喜んで(笑)、しばらくしたらですね、瓶を1本持ってきましてね、なんかかなと思ったら、プレゼントってワイン1本もらっちゃった(爆笑)。人は

ほめるべきです。それもらうために言ったんじゃないんです、私は介護しようかと思った、そんな人がどっかの飛行機に乗ってますよ。なぜか。もう子育ても終わって孫も嫁に行ってもう仕事しかないんですね。それで仕事楽しい。そういう人しか今乗る人がいないそうです。それで7、8%も失業者がいるわけですね。おかしいですね。日本は4.1%でしょ、失業率。半分ですよ、アメリカの。それはいいとしてですね、とにかく本をしっかり読む。

さて、この次が本番であります。【板書しながら】これですね、何ととっても、これだけは何としても教えたい。私は今日いろいろな方から話してもいいように3つに分類していろんな話をしようと思ってやってきました。しかし、これだけは絶対に話そう、これだけは何としても教えたい、話したい、これを【板書中】これを鮮明に持つ、授業をやるときに今日はこのことだけはなんとしてもやりたいということ鮮明に持つということですね。大事なことは、しかし教えるはならないということです。これは教材研究ですね。この教材研究はこれとつながりますね。本をたくさん読む。情報をたくさん持つ。こういうことと、それからこれは日本文化を語れる。繋がりますよ。よく繋がります。

9月の21日の日に、私は富士山の授業をしました。NHKの教育テレビで放送があるかと思いますが、21日に収録して飛び込みで45分間「江戸市民はなぜ富士山に憧れたか」という授業をやりました。銀座の泰明小学校というところで飛び込みでやりました。もう絞って絞って、私がやりたい内容書いたら6時間分になっちゃった。どうしても絞れない、6時間ですよ。それで私はB4の紙にですね、2枚に絞った。しかしそれだけでも3時間分ある。どうしても切れない。それで授業やりながら子どもの動きに対応して、それを選択してやっていこう、そういう腹をくくってですね。NHKのディレクターが「先生、これ全部やるつもりですか?」「そのつもりですが。」「できっこありませんよ。」プロですからね、相手は。教育テレビのプロですから、指導案見てできっこありませんよと。「いや私は教育のプロですから、やってみせます」と、偉そうに言ったんです。そしたら「掛け値?掛け値?」「掛け値なしにやろう」ということで話しまして、やったんですよ。そしたらできたんですよ、2枚。およそ3時間分の内容を45分でやったんです。やれんことない。とにかくやりたいんだ、これやらなきゃもう生きていけない、それくらい考えてやったんですよ。そしたらやっぱり子どもが感動しておもしろいついてきました。授業ていうのはやはり意義がなきゃいけないでしょ。意義が。

おもしろい話がありますよ。九州のある文部省の指定校、その指定校は3年経ったら研究発表しなきゃいけない。その研究発表の日に調査官が呼ばれて行った。社会科の調査官が1年生から順番に見て6年の教室に行ったら、こんな大きい地球儀を6個使った授業が行われていました。見たら、ああ文部省の指定校になって、発表会だから一生懸命買ったんだなと思った。一番後ろの席の男の子に、地球儀の軸はこう傾いてるじゃないですか、「君、この軸はどうして傾いてるの?」と聞いたら、そしたら男の子はなんかどぎまぎして「僕がやったんじゃない!」(笑)これはどういうことだ。それで、そしたら6年生の授業終わっちゃった。担任の先生が「先生今日はどうもありがとうございました。」「それはいいけど、後ろの男の子がこう言いましたよ。」と言ったら、担任の先生がどぎまぎして「申し訳ありません!あの地球儀は買ったとき

から傾いてたんです！」(爆笑) あれれれれ、この親にしてこの子ありだな。これが文部省の指定校だと大変だと急いで校長室行きまして、校長先生に「6年2組の担任がこうで、子どもがこうですよ」って、来賓がいっぱいいるところで大きな声で言ったものですから、校長先生が烈火の如く怒って教頭先生に「6年2組の担任呼びなさい！」と言った(笑)。担任はそんなこと知りませんから、呼ばれてきました。中に入ろうと思ってもいっばいで入れない。入口のところに立って「校長先生、なんか御用でしょうか！」って言ったら、校長先生が一番奥からぱっと立ちあがって「君！教材道具をA店で買っちゃいけないと言ったのに、また買ったな！」(爆笑)と言った。なんということでしょうか。校長先生も同じ穴のムジナ、ということで。こういう授業をやっちゃいけないんです。地球儀を学習するのに、どうして地球儀が傾いてるのと聞いてみる。「大昔から、縄文時代から傾いてるんだよ。」そういう答えを言うからダメなんです。正解があるでしょ。それをきっちり教えないきゃいけない。やっぱり正確にやらなきゃ。これはですね、地球はできるときに星とぶつかったんだ。なんという星か。相手は逃げたからわからない(笑)。ぶつかったときに地球の軸が傾いた。つまり、その星は逮捕すべきなんです(笑)。未だに逮捕できないね(爆笑)。ということで。後日談がありましてね、その地球儀を買ったのは教頭先生。教頭先生はたいそう心配して、A店に電話して「社長出せ！」それで社長出した。「君の所から買った6個の地球儀はみんな軸が傾いてるそうじゃないか。」「申しありません！直ちにまっすぐのと取り換えます。」(爆笑)こんな話あるんでしょうかね。こういうことにならないようにしてほしい。

それでですね、教えるてはならないんですよ。どうするのかといえば、子どもが学びたい、それから調べたい、それから私の言葉で言えば追究したい、こういうものに、これをこういう風に転化するんですね。転化、私は転化と呼びます。これの中身を説明します。これはねらいです。このねらいはこれですね。これは授業です。授業とは何ですか？と言ったら、「これだけは何としても教えたいということ、子どもが学びたい調べたい追究したいというものに転化すること」。30字くらいで書きますね。教員採用試験にこういう風には書けば合格します。事実ですね、その証拠でいいますね、東北福祉大は就職率が非常に良いんです。もう90%くらい。あと10%くらい足りませんがね。去年1人キャビンアテンダントになったんですね。教育学部でキャビンアテンダント出せる。語学勉強してるんですね。文化の勉強してるんです。彼女は国際線に乗りたい、そういう希望を持って全日空を受けた。そしたら合格したんです。暇があったら旅行してたんです。要するに見てたんでしょね。それで真似したんでしょ。だって我々の授業だって、私の授業だって、99.9%はこれは真似ですよ。私のオリジナリティは0.1%しかないんだと思ってやっております。どこかで、誰かが、先輩がやってきたことを学んで、それをやって、その先輩がやったことを真似ができるかできないか、決めてですよ。「俺は絶対に人真似しない」という人がいたら、いっそ教師は辞めた方が良いでしょう。子どものためにもさっさと辞めてくれ言いたいですね。それは真似しないと成り立たないんですよ。文化の継承。真似ることですよ。ね。歴史もそう。

今、なんでしたっけ、今絵が問題になっているでしょ。フランスの。「モナリザ」、ルーブル博物館に本物がある。ところが20歳若いもう一つの「モナリザ」がスイスにあるというのが問題になったんですね。歴史は99%仮説ですよ。仮説ですね。資料が一枚出てきたら、ひっくり返るんですよ。特に古代はね、非常に

ひっくり返りやすい。ですから、真似をしましょう。99.9%真似しているうちに、0.1%のオリジナリティーが出るんです。最初から、俺は人の真似をしないでオリジナリティーなものをやるんだと張り切っている人は大抵失敗しますね。そうなるようになってるんですよ。

その中で、技術、6つ挙げていますが第1に、どういう発問をするか。それが適切かどうか。教えたいことは何か。それが発問にちゃんと出てくるかということなんですね。そうすると子どもは、子どもの反応が出ます。それを集約し、焦点を定める。この発問、この指示をやったら子どもは反応します。それを集約焦点化するのに役立つのが、これですね。黒板でどうまとめるか、これが非常に大きな要素ですね。それから、その次は資料活用ですね。資料活用をする。資料ということで思い出しましたが、

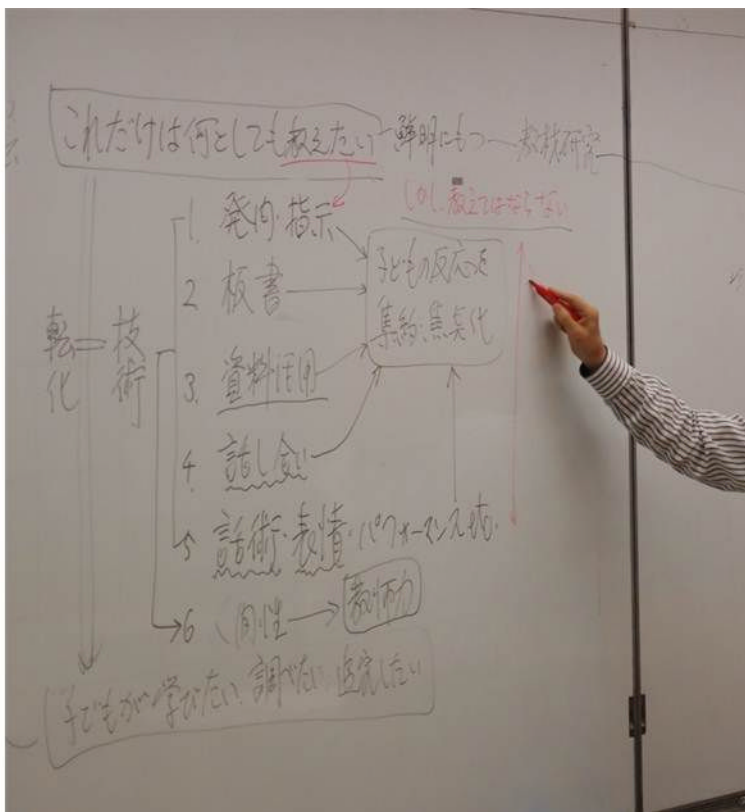
網走に行ったんですが、網走に新しいホテルが出来たので、その新しいホテルに泊ったんですよ。そして、部屋に入ったら冊子が置いてあって、自由にお持ちくださいと書いてある。「ああ、これはいい。」と思って、その冊子を見てみると、網走刑務所の歴史が書いてあった。それを見たら、みんな知らない。これはすごい。と思って自由にお持ちくださいと言うので、持って帰ろうと思ったら、フロントの人が「1番上の1枚だけは、無料だけどそれより下は有料になります。どうするんですか。」と言われて、200円払いました。その中で、何が書いてあったかという、北海道札幌から、旭川、網走結ぶ中央道っていうね、この中央道160キロある、これを9ヶ月で作ったっていうんですよ。初めて知った。そんな無茶なことできるか。160キロですよ。150キロより10キロ長いんですよ(笑)。それを9ヶ月で作ったっていうんですよ。どうやって作ったか、これは調べざるをえない。釧路っていう所の釧路刑務所の人を連れてきた。そして屯田兵とその釧路刑務所で刑を受けている人たちが使われて、ここは網走ですから、ここに刑務所を作ってここに入れて、ここに道路を作らせた。そして211人死んだんです。死刑じゃないんですよ。死刑じゃないんですけど、6ヶ月、9ヶ月で211人死んだんです。墓がこの周りにあるんですよ。1,2,3,4,5,6か所。これをですね、逃げないように二人一組で鎖をつないだ。死んだ人を道の横に埋めて、墓を作った、それが6こあった。私はこれをね、昔旭川からバスでグーッと一日かけて網走まで来た。今は4時間でいいんですよ。昔は一日かかった。なぜ明治政府はそこまでしたのか。ロシアが南下し始めたからだ。そういうのが分かってですね、これは面白い！ということで、時間を作りまして網走監獄、網走監獄というのがあるんですね、観光のメッカになっていますが、そこに資料を買いに行ったんです。資料が欲しくて、入口でお金を払おうとしたら、払わなくてもいいと、案内してくれた。行ったらいろんな資料があって少し買ったんですよ。そして買っているうちに理事長が会いたいっていつてますから。「私はそんなこと何も要求してませんから」と言ったんですが、理事長は会ってくれると言ってる。私は何も要求してませんと言ったら、わざわざ資料を買いに来る人なんて、監獄までね、資料を買いに来る人なんていない。で、理事長室に呼ばれた。理事長室で1時間半、理事長は話しをする機会がない。だいたい話を聞いてくれる人がいない。だからかどうかわかりませんが、理事長の話は全然面白くない(笑)。それを私は1時間半我慢して聞いた(爆笑)。でも資料は集まるんですよ。だいたい私が取材に行く時は、もう取材する100パーセントという位下調べをして行くんです。そして実際に見に行って絶対にプラスαがあります。調べないで行ったら全然ないですよ。「百聞は一見に如かず」、あれ嘘ですよ、あのことわざは違います。「百聞があつて一見が生きる」んです。百聞というのは事前の調べ、調査、百聞があつて一見が生きる。これが私が言った格言であります。だからあてになりません。

とにかくそういうことをやって資料を集めています。網走でそういうことが分かれば事前に資料を集めて

そして行きますよね。そしてそれに+αが出てきます。今プーチン+αって何かわかりますか？プーチン当時のロシアの大統領、プーチン+αは、北方領土が日本のものになるかならないかを公式ですよ。今年の7月29日 秋田県の佐竹敬久知事が東日本大震災後のロシアの支援への感謝でプーチン大統領に秋田犬を贈呈し、プーチンは自分の妻よりは犬の方が可愛い(爆笑)、それで北方領土を返そうかとまでは言わなかったけども(笑)、+αをどうするかを今プーチンが大統領の間にやらないと、ダメ。メドベージェフじゃダメ。これが公式でしょ。これを分かっておくと、次が面白い。

次に行きますが話し合いですね。今の学校で、先生方の授業で一番まずいのは話し合いです。話し合いがうまくできない。これ大学生が教育実習に3年と4年で行って、私の学生も実習に行っておりますが、私は大学生のために必ず授業を一回見せてみる。大学のすぐ近くの小学校を借りて、そこで授業を見せる。したら私の授業を取っている人、つまり私の本を買った学生にその授業を見せるんですが、買わない人も来るんですね。本買わないとだめだよ、とは言わないけども、まあそれは冗談ですけど。今いじめの問題が話題になっていますが、いじめの問題は私は授業が悪いからだと思えますよ。授業でその子が熱中して、授業ってこんなに面白いのっていう授業をやれば、笑いのある授業をやれば、いじめは起こらないんですよ。欲求不満でいじめが起こるんですから。欲求不満を起こす先生は授業をするとき、子どもと目を合わせていない。先生は別の方向を向いて教えている。子どもに目を合わせて、そうするといじめられている子はなんとなく、なんか訴えている、助けてという感じが出てくる。それを何で見破れないか、私は不思議に思っているんですけど。やっぱりそれは普段の子どもをよく知っていれば、できると思うんですね。とにかく話し合いをしっかりとやる。

それから話術ですね。それから表情、それからパフォーマンス、もろもろこれやっぱり教師は話術がうまくなければいけない。表情、教室に入ったら常にこぼれるような笑顔。いいじゃないですか、こぼれるような笑顔、これは義務ですよ。義務です。やっぱり東北の先生に今笑顔を出せっていう方が無理ですけども、それでも笑顔を出しなさい。笑顔をして先生が子どもに元気付けるんだと私は、言ってますけども、やっぱり表情、笑顔ですね。そして、楽しい話ができるっていうこと、それからパフォーマンス、そして最後はこの人間性。この人間性にこれが集約されるんですね。人間性にこういう技能が、技術がプラスされたら、それが教師力。教師力、教師力という言葉は、人にあるとしますけども、教師力と言うのは、こういう技術とこういう内容をこれだけ



は教えたい。教えたいという内容を体得している先生を教師力と言うんですね。それを身につける。年月がかかりますね。しかし、そのためには、一つは本を読む。いいですか、本を読む。もう1つは、もう1つはですね、上手な人の授業を見る。授業を見ないといけない。本物を。そして、それに、憧れを持つということ。ああ、あんな授業したい。あんな授業にしてみたい。そういう憧れを持つということです。私は未だに、長岡文雄という先生を追いかけしています。もう亡くなりましたよ。亡くなったけれども、私が27歳のときにその先生の授業に出会った。もう、THE授業だと思った。

私が求めているのはこれだ、求めていた授業だ。それに近づいたら、そのレベルの目標をあげる。また近づいたらあげる。永久に追いつかない。常に新鮮にしていく、目標を二つ持つ。近い目標、ちょっと上の目標、大きい遠い目標、二つありますね。これを見つけることが大事ですね。そしてここからここまでの多様の技術といいます。対応の技術。これが難しいんですね。対応の技術というのはなかなか難しい。

それで1つ話しますと、群馬県に温泉がありますが、まあ、日本1というか、今では1番温泉の数が多いですね。群馬県の温泉、僕ほとんど行きましたよ。その中の一つに、面白い温泉がありまして、帰る時に、駅に向かうバスに乗った。バスに乗ったらガイドさんがいて、「みなさんこの温泉に何回入りましたか。昨日から今日にかけて、1回入った方、手を挙げてください。」10人くらい。「今、手を挙げている方は10歳若返りました。この温泉は若返りの効果がある温泉です。1回入られた方は10歳若返ったんです。よかったですね。」ウィークデーですから皆、高齢者ばかり。高齢者が喜んでね、「若返った。見てみて。若返ってるでしょ？」周りの人に、言いよるわけです。そのうち、「では、2回入った人手を上げてください。」さっきよりも多い20人。「さっきよりも多いですね。2回入った方は20歳若返るんです。さっきの方よりもっと輝いている。皮膚も輝いている。目もキラキラしています。髪の毛もキラキラしています。よかったですね。皆見てあげて下さい。」もう、皆ね大喜びですよ。バスの中はね何て言うかな？子どものように大賑わいですよ。温泉に入った効果より、バスの方が何倍も効果がありました。その次は3回でしょう。3回という前に、私が手を挙げたんですけども、私は、バスに乗る時は、前から2番目の席に乗るっていうのを鉄則にしているんです。1番前の席にいとガイドさんの唾がかかるでしょ。それで2番目の席に座っているのね。私は、3回目を言う前に「はい。」って手を挙げたのね。そしたら、「なんですか。」って言われたの。「はい。私は3回入りました。」って言ったら、「3回入ると元に戻ります。」(爆笑)見事な対応の技術であります。こういう技術を私は身に付けたい。「ガイドさん、あなたはすごい。学校の先生になりませんか？今、私が知っている範囲内だと、あなたのような対応の技術がうまい人は見たことがない。ぜひ、学校に来てください。」「私は学校が大嫌い。学校の勉強が嫌いでガイドになったんです。行きません。」言いましたけれども、こういうガイド、プロですよ。プロ中のプロ。だから授業には突っ込みとボケ、ちょっとボケる。この子あんなこと言ったら、知らない振りをしたり、ボケる。そうしておいて子どもが発言したら、ズバッと突っ込む。ボケと突っ込みですよ。これが対応の技術。

さあ、こういう授業の技術を身に付けるということで、時間になりましたが、もうちょっとね。この愛知県は教材の宝庫です。ちょっと知ってる人にメモしてもらったらありますね。シクラメン、シクラメンは日本2位です。それから、岡崎の石工。二宮金次郎像は岡崎で作られたんですよ。あれ、背中に薪を背負って

いるでしょ。何本背負ってますか。それが全部違うんですよ。見つけたら必ず数えることです。岡崎の学校に二宮金次郎の像があります。それから、蒲郡の温室みかん、これ日本2位。それから、鰻が2位ですよ。一色の。そして鹿児島が1位ですね。それから、イチジク。安城と碧南。このイチジク作りは独特で、日本であんな作り方してるのは、ここしかないですよ。見た人はイチジクに絶対見えませんね。イチジクのお化けと言いますね。お化けですよ。一葉一花。一枚の葉っぱに実が一個つく。普通みかんは、大体23枚に1個つく。柿もそうです。梨もそうです。ところがイチジクは一枚の葉っぱで、一個の実を作る能力があります。何故かという葉っぱが厚いです。日光と熱を抱き込むんですね。そしてだきこんででんぷんを作る。でんぷんを作る工場は、葉緑素ですね。そして葉緑素はでんぷん工場です。原料は、根から取った水と栄養。空気中の二酸化炭素。そして燃料は太陽。それを使ってでんぷんを作るんです。そして、でんぷんは糖にして根っこに貯めたり、果物に含まれたりしますね。そういう学習をやるんですよ。それからギンナン、祖父江のギンナン。これ、つまり、私が子どもを驚かせるときは地域ブランドを相対化することが一番大事じゃないかなと思っております。

さて、そこで時間がまいりましたので、終わりにいたしますが、さて、板書で私が消した所には何と書いてあったでしょうか。そんな昔のことは忘れましたか？私たちはなんとしてでも教えたいということですね、懸命に教材研究する。しかし、教えるはならない。ということは子どもが学びたい、調べたい、という風に追究したいというものにかえることはそれが、授業です。授業には技術が必要です。さて、消しますね。さて、6つの技術は、一体何でしょうか。もう、忘れましたか？1番、発問し、2番板書、3番資料活用。それから、話し合い。表情、それから、人間性。それが教師力。1から5をまとめて対応の技術。そして今日話した、引っ張りだこの、ひっぱりだこの学生になるには、まず、語学。語学を学ぶために一番いい方法は外国人と付き合うということです。韓国語もいい。中国語もいいです。とにかく外国人と付き合う。これが一番いいんじゃないか。そのためには、大学に外国人をもっといれてもらう。これは、日本語ができる。正しい日本語ができないとこまる。日本語で語れない。これが一番の問題だそうでございます。言葉が出来ても日本語が書けない、情報持ちになる。それには旅行が一番。それから、本をたくさん読む。ひと月に0.3冊にならないようにしなくちゃいけない。指導するとは何なのかということをお願いして終わりにしたいと思います。指導するとは何なのかということの第一は、もう板書は消しましたから、授業の終わりは黒板を消す、消してしまうことで終わり、だから黒板係自体を作っちゃいけない。いきもの係は作っていいです(笑)。だってオリンピックの歌うたったでしょ？(爆笑)いきもの係、小学校一年生の時にいきもの係だった人が、NHKのオリンピックの歌を歌ったでしょ。先生が必ず消して、消しながら復習するんですよ。消すということは、復習するんですよ。最後の5分間は黒板を消しながら復習するということに徹して下さい。学生たち、もう4年生は3年生かな、10月に教育実習がある。それをやって見せて下さい。担任の先生はびっくりしますね。これでは点の付けようがないと。今の学校はほとんど黒板係作ってるでしょ。指導するということはわからないということを知るようにするということです。その単純なことがなかなかできない。わからないことをわかるようにする。見えないことを見えるようにする。二番目は多様な学び方を身につける。多様な学び方ですよ、簡単な学び方じゃないですよ、多様な学び方を身につけることです。三番目はなんでしょう。学習意欲を引き出す。これは目的です。一番目は内容、二番目は方法、三番目は目標です。目標、

内容、方法です。

その意欲を引き出すということそれで最後にそれにまつわる話をして終わりたいと思います。あのクレオパトラというのを知ってる人がいますか？会ったことがありますか？エジプトにいた人ですが、アントニウスというひとがエジプトに攻めてきました。クレオパトラを攻め落とそうしたら、あまりにも美しく、くらくらとめまいがして戦争やめたといってクレオパトラと仲良くなって楽しい生活を送りました。ある日、アントニウスが「釣りをしたい」と、二人で釣りに行きました。岸壁から地中海に釣り糸を垂らした。アントニウスが入れたらぱっとかかった、こっちは全然つれない、どこで釣れないということが起こったのか、それまで釣れないという言葉はなかったんですよ。それでひょっと見たら潜水士が潜ってアントニウスの釣り針に魚をかけていた(笑)。それを見たアントニウスはクレオパトラの差し金だ。クレオパトラが艶然と笑って、「あなた釣りなんか漁師に任せて、あなたは世界をお釣り遊ばせ」、この一言でアントニウスはやってやろうという気持になり、ものすごい意欲を出しました。そして「皆の者集まれ、世界を釣るぞ」と言って遊びほけている家来を集めて、エジプトのために戦争に行くんです。そしてすぐ戦死するんです(笑)。つまりあまり意欲をだすとろくなことにならない。だから先生方もあまり意欲を出さない。そこそこに意欲を出して頑張っていたきたい(爆笑)。どうもご清聴ありがとうございました(大きな拍手)。





## 附属養護学校と附属岡崎小学校における教育実習の際の指導案指導について

船尾日出志

以下は取材内容を踏まえてはいるが、船尾の責任において論述され、平成 24 年 5 月の教科教育学研究部門の例会で発表されたものである。

### I. 問題意識

本学における当面の教育実習改革が内包する課題の 1 つは事前指導のいっそうの充実である。その際、とっさに念頭に浮かんだのは：

- ① 教育実習を実施する学校・学級における事前出校日における観察は相当に有意義であろう。
- ② 実習前の大学教員による数日にわたる指導の「費用対効果」は期待できないのではないだろうか。

①については、附属養護学校（以下、「附養」）では事前出校の際に、配属予定学級に入り、授業を観察し、昼食を一緒に食べ等、子どもたちとかなり長い時間を一緒に過ごす。その具体的な様子や意義を知ることが、参考になると思った。そこから附属養護学校に出向き、先生方から教えていただこうと考えた。

②についても、効果的に進める方策を考えてみようと考えた。まず思ったことは、学習指導案の書き方に特化した指導である。もとより実際に担当する学級の子どもたちを知らないで、指導案を書くことは、畳の上で水泳の練習をすることに近い愚を犯す可能性がある。しかし指導案作成の原理を実際に書くことで再確認することは無意味とは言えない。しかも「事前出校日における観察」（①）と組み合わせると、さらに意義深いものになる可能性があるのではないだろうか。実習校の指導案スタイルに則った練習もできるであろう。そこから附属岡崎小学校（以下、「附岡小」）に出向き、先生方にとりわけ指導案作成に関する指導の現状を教えていただこうと考えた。

### II. 取材活動：附養

5 月 15 日に附養にて取材を行った。応対してくださったのは、酒井副校長、尾崎教頭、鈴木主幹教諭である。取材時間は約 1 時間。

#### ① 副校長よりのお話

附養では春に 4 週間、秋に 2 週間の教育実習を実施。ほぼ 1 名の教員が 1 名の学生を担当するシステムであるので、良い実習ができています。

それにたいして附属中学校や附属小学校では 1 名の教員が 4 名（ないし 5 名）の学生を担当する。名古屋市が中学校での 4 週間実習を認めていないので、名古屋市教員を志望する学生でも、中学校での実習を名古屋市近郊の市町や附属学校で行っている。そのことから主免実習を 4 週間から 3 週間にするという案が出てきた。昨年度からは 3 週間+1 週間でやっている。名古屋市立中学校でも実習生を受け入れていただければ、附属教員による実

習生指導もより以上に充実したものになると考えている。

附養では愛教大教員養成課程のほぼすべての学生による介護等体験実習を受け入れている。愛教大の先生方にそのことを知ってほしいし、学生との会話のなかで、ぜひ話題にしてほしい。

## ② 教頭および主幹教諭よりの説明

2012年5月9日（水）に実施された事前指導の日程は以下の通りである。

9:00 学校集合

9:00～9:15 教務主任による日程説明（会議室）

9:20～9:55 第1校時 小学部と中学部の全6学級の授業参観（1学級およそ5分）

10:05～10:40 第2校時 高等部校内実習参観

10:45～11:00 小学部主事・中学部主事への質問（会議室）

11:00～11:15 更衣室にて活動しやすい服装に着替え

11:20～13:20 児童・生徒との交流，昼食（配属学級）

13:20～13:45 更衣室にて元のスーツに着替え

14:00～14:30 副校長挨拶，教育実習主任より教育実習の心得の説明（会議室）

14:30～15:00 全体説明

15:00～16:30 各部打ち合わせ

事前出校では事務的な打ち合わせよりも，実習生が子どもをしっかりみてくれることを期待している。子どもがいる間は子どもとかかわってほしい。授業参観といっても，実習生が子どもとかかわっても良いとしているが，実際にはなかなかできないようである。

写真や映像で子どもの様子をみても，実際にみることに勝ることはない。

事前出校後の学生の感想文からも，学生がよく観察して，実際の実習に活かせる結論を引き出していることがわかる（下に船尾がそのエッセンスを要約）。

## 授業参観を終えての感想文のエッセンス

- 1) 教員の児童・生徒への目配りや気配り，教室の椅子や掲示などの物や教材がとても工夫されていた。
- 2) 教員は一人の子どもに目を向けながらも，同時に他の子どもの様子や教室全体の様子をしっかりと見ている。
- 3) 授業に参加しにくい子どもに，参加しやすいタイミングで声をかけて，参加できるようにしていた。
- 4) 教員の声はとても大きく，話しかけるときは目線を合わせて，表情豊かに話しかけていた。
- 5) 子どもの活動をその都度「よくできた」と褒めていた。
- 6) 授業の最後に，「〇〇さんは◇◇◇ができましたね」と具体的に確認しながら褒めていた。
- 7) 教員には子どもを見る力はもちろんのこと，授業を組み立てる構成力，何かを演じる演技力などさまざまな力が必要であることが分かった。
- 8) 高等部の作業学習では，子どもに合わせた作業表や手順を書いたボードがあった。

9) 高等部の作業学習からは職場の雰囲気を感じた。

学習指導案については、次の資料をもとに説明する。

小学部あおい学級 (5・6年) ○○科 学習指導案

日 時 平成 24 年 6 月 日 ( ) 第 校時

場 所 小学部あおい学級

指導者 ○○ ○○<sup>印</sup> ▽▽ ▽▽<sup>印</sup>

1. 単元名 ( 時間完了: 本時 / )

2. 子どもたちの○○科における実態

○○ ○○は、.....

(日常の様子や、これまでの授業など、実施する領域・教科の中での様子を記す。次項で記す「ねらう姿」が浮き彫りになるような実態把握・記述をする。)

(今はここまでできていて、ここがもうちょっと伸びそうという様子を「姿」で書く。)

○○ ○○は、.....

(「できない」、「やれない」などの表現はしない。どこまでできるのか。)

○○ ○○は、.....

(上学年の子どもから、名簿順に書く)

○○ ○○は、.....

(障害名は書かない)

授業の対象となる子どもすべてについて記述する。

◎子どもの日常の様子から、子どもをとらえることが、もっとも大切にしているところである。

◎子どもをどうとらえるかは、子どもをどう育てたいのかに通じるものである。そこが読みとれるような実態把握が必要である。

3. 子どもたちに本題材 (単元) でねらう姿

氏 名	本題材でねらう姿
	▼

#### 4. 題材（単元）の計画

①くまさんの案内で、一つずつ歌を歌ったり、ゲームをしたりして遊ぶ・・・時間

※題材（単元）の流れが分かるように記述する。

②森のどうぶつさんと一緒に、ゲームをして遊ぶ。・・・時間（本時 / ）

#### 5. 活動場面図

授業の様子が分かるように丁寧に描く。鉛筆書きのままでは、はっきりと描けないので注意する。（下の例は教員によるものである。）



#### 6. 本時の授業構想

時間	子どもの活動	教師の支援と指導上の留意点
1		<p>子ども一人ひとりへの教師の支援と本時でねらう姿を中心に記述する。</p> <p>【○○】...</p> <p>T 1は....。</p> <p>※T 1とT 2の動きが分かるように記述する。</p> <p>※【 】の中に子どもの名前を入れて記述する。</p>
2		
3		
4		
5		
6		

実習生は4週間の実習のなかで2週目の金曜日ないし3週目に研究授業を行う。上記のような学習指導案はほぼ実習1週目に完成させる。そのためには附養での事前出校の際に、どんな授業をやりたいか聞き、実習が始まるまでの期間もメールで意見交換をする。

大学での事前指導への要望：幸い、附養で実習を行う学生への大学での事前指導を担当するのは障害児教育講座の先生方である。同講座の先生方は附養の子どもたちのことをよく承知しておられ、その発達段階や特性をふまえて指導してくださる。

一般的に大学での事前指導では、実習に不安をもつ学生へのメンタルケアを行ってほしい。安心して実習を開始できるようにしてほしい。

「子どもありき」の教育というものを理解して、実習に来てほしい。さまざまな子どもがおり、したがってさまざまな教育のあり方が必要であることを分かっているほしい。

### Ⅲ. 取材活動：附岡小

5月16日に附養にて取材を行った。応対してくださった先生は大槻研究主任。取材時間は約45分。

取材日の数日前に次の2点についての説明をお願いしていた。

- ①附岡小における学習指導案に関する指導について
- ②大学における事前指導内容についての要望
- ③その他

#### ◎ 大槻先生によるお話

①について：(船尾が持参した附岡小の現役およびOB教員による刊行物に書かれた単元構想図について論じ始めたところ) 自分自身が教育実習を附岡小でおこなったときには、確かに構想図を書いたが、今では附岡小の教育実習生は、構想図は書かない。

さらに、例えば、「生活教育」を標榜する附岡小の日々の教育のなかでは、「生活のなかから自ら問題を発見し、それを自分で解決し、そこで培った力を活かし、自分の生活をつくっていく『生活に生きてはたらく力を養う問題解決学習の展開』」がなされているが、教育実習期間は短いため、問題解決学習を実践することは難しいと考える。それゆえ「課題解決学習」を展開する。したがって実習生は課題を教科書教材のなかから選ぶことも可能である。

指導案も、後掲の例(雛型)から分かるように附岡小の教員が書くものとは相当に違っている。

②について：大学における事前指導の枠内での指導案作成に関する指導については、学生たちに次のことを助言しておいてほしい。

◎児童観に関して：子どもの姿(生活の様子や生活日記)から何をとらえるのか(仲間との関係、各教科のとらえ)。そしてどのような願いをかけるのか(教科としての学び、人間としての成長)。

◎教材観に関して：教材を選定した理由を明確にする。本教材で、どんな学びが期待できるのか(1)この教材だからこそできること【教材性】、2)この教材に繰り返しかかわることで、子どもたちはどんな意識をもつだろうか、そしてどのような意識に際して、どのような「課題」を呈示するのか、3)その「課題」を解決するために、自分ひとりで、そして仲間と調べたり、追究したりするなかで、どんな学びや成長が期待できるのか。)

◎指導観に関して：1)子どもたちはどのように教材に出会い，どのように教材にかかわっていくのか，の見通しを書く。2)教師が「課題」を提示したとき，子どもたちはどのようにそれに向き合っていくのか，その際，教師は子どもたちをどのように支えていくのか。3)かかわり合いでは，教師はどのような働きかけを講じるのか。4)かかわり合いを終えた子どもたちは，どのような視点や立場，考えで学習を進め，願いに迫っていくのか。

### ③その他

今年度の場合は9月14日に実施予定だが，「オール三河」の事前指導の際には，附岡小で1時限授業を参観してもらい，昼食後，附岡小で実習を行う者だけで事務的な説明をしている。授業参観の部分等を+してみるという考えはあると思う。

昨年度試行した3W+1Wの最後の1週間は良かった。実習生から距離を置いてみる事ができたことが何より有意義であると思った。

45字×50行 10.5ポイント

↓MSゴシック 10.5ポイント

指導者 ○〇 ◇◇

1. 日時 平成24年5月29日(火) 第5時限 場所 本館音楽室 ○年〇学級教室

2. 単元 「いつでもあの海は」←単元名(教材名)を書く。教科書教材を用いない場合は、題材や活動内容を書く。

### 3. 目標

・「いつでもあの海は」の合唱を通して、曲に対するイメージをもち、強弱のつけ方を工夫して表現できる子どもにしたい。←第1目標は単元の教科として学ばせたい力(知識、技能、表現、思考など)を書く。

・仲間の考えを聞き、自分と仲間の表現を比べることで、仲間の表現のよさや自分の表現の足りなさに気づき、クラス全体の合唱として、よりイメージに合う合唱にしようとする子どもにしたい。←2つ目の目標は、かかわり合いを通して引き出したい子どもの姿を書く。

### 4. 単元について

(1) 児童観←学級の子どもたちを、生活の様子、生活日記、会話などをもとに、教科の側面からとらえ、具体的な姿を述べる。子どもの姿から見えてきたよさや足りなさを挙げ、どんな子どもになってほしいか、指導者としての願いを目標と整合するように記す。

5年1組の子どもたちは、「赤い屋根の家」「Believe」などの合唱曲をととても大きな声で元気よくうたえている。A子、B子ほもっとうたいたいと言っていた。これらのことから、多くの子どもたちは、合唱に対して苦手意識がなく、楽しんで取り組んでいるからだろう。また、C子、D男、E男、F男は、放課に楽しそうに大きな声で一緒にうたっている姿が見られた。遊びのなかで声を合わせて歌を楽しむことをしている。しかし、合唱を聞いていると、大きな声で元気よくうたう子どもはいるが、うたうだけで満足している子どもも多い。これは、歌詞の意味を考えて歌で表現しよう、声のバランスや強弱を取り入れてうたおうとする意識があまり高くないからだろうと推測できる。そのような子どもたちに、歌にはそれぞれ歌詞や曲調に意図があり、その意図を表現することが大切だと考え、大きな声でうたうだけでなく、曲に合わせた強弱を工夫して合唱することのよさを感じてほしいという願いをもった。

(2) 教材観←教材性を明らかにする。この教材で、どんな課題を提示し、どのような課題解決学習が成立し、目標に迫れるかを書く。

「いつでもあの海は」は、前半部分が斉唱、後半部分は体位的な2部合唱から和声的な2部合唱へと構成されていて、音の重なりの違いを表現できる。さらに、1番と2番の歌詞は、対称的な海を表現しており、その違いをとらえ、強弱を変えろというような工夫をして、合唱で表現できる教材である。

子どもたちは、「いつでもあの海は」を聞くと、「時には激しいけれどきれいな海」というイメージをもつことができる。主旋律、副旋律を別々に練習して、両方ともうたえるようになった子どもたちに、3段目の歌詞を注目させることによって、対称的な1番、2番の歌詞から、それぞれに違う波のイメージをもつことができる。ここで「3段目の歌詞の違いがはっきりとわかるようにうたってみよう」という課題を提示する。子どもたちは今までうたってきた斉唱や合唱の練習を思い出しながら、1番の「激しい、くだける」と2番の「やさしく、ささやく」という歌詞の違いから、強弱をつけてうたえば、歌詞の違いを表現できると考える。なかには「激しい」から大きくうたう、「ささやく」から小さい声でうたう、静かにうたうなどと考える子どもがいる。しかし、実際に合わせてうたうことで、それだけではなかなかイメージに合った合唱になりにくいことに気づく。このことから、自分たちの歌詞からとらえた波のイメージに合うように、強弱のつけ方を工夫してうたうことを考える子どもが表れ、目標に迫ることができる。

(3) 指導観←1段落目:課題に向き合った子どもたちが、その課題の解決に向け取り組んでいるときの教師支援を記す。教科の特性をふまえた書き方をする。2段落目:かかわり合いにおける支援の方法を書く。3段落目:かかわり合いを終えた姿を書く。

課題に向き合った子どもたちは、3段目の1番、2番の歌詞から「波が岩にぶつかってバーンとなる」「おだやかで静かな波」などのイメージをもち、どのようなうたい方をしたらはっきりとした違いが表現できるのかを、何度もうたいながら考えさせたい。そこで、子どもたちが考えた強弱の工夫を耳で聞いて確かめられるように、グループを作り、自分たちの考えを取り入れて実際にうたってみる。友だちの合唱を実際に聞きあうことで、自分たちが考えたイメージに合った表現ができているか、強弱は思い通りに聞こえているのかを確かめることができ、さらにまた自分の考えを明確にもたせたい。

かかわり合いでは、子どもたちが表出した工夫を取りあげ、ピアノで音にして聞かせてみたり、みんなでうたってみたりして、常に音にして耳から聞くことで、工夫したいことが表現されているのかを確かめる。自分たちの考えたい方を聞くことで、そのよさや足りなさに気づくことができるであろう。

かかわり合いを終えた子どもたちが、友だちの意見を取り入れながら、1番と2番の歌詞の違いを、強弱のつけ方を工夫して、自分たちのイメージに合った表現をしていこうとする姿を期待したい。

## 5. 指導計画（全8時間） ←出合わせから単元終了までの各時間の学習内容を、子どもの様子が分かる言葉で書く。

- ・「いつでもあの海は」を聞いて、曲のイメージをまとめるよ。・・・1時間
- ・「いつでもあの海は」をうたってみるよ。・・・1時間
- ・3段目の歌詞の違いからイメージを作るよ。・・・1時間
- ・3段目の歌詞の違いがはっきりするようにうたってみよう。・・・2時間
- ・3段目の歌詞の違いがはっきりするためにどんな工夫をしたかな・・・1時間（本時）
- ・声の大きさのバランスを考えてうたってみるよ・・・1時間
- ・私たちの「いつでもあの海は」を完成させるよ。・・・1時間

## 6. 本時の指導

### （1）本時の目標

・3段目の波のイメージの違いははっきりわかるように工夫したところをうたったり、聞いたりすることで、自分たちで考えた波のイメージに近づくように強弱をつけて合唱しようとする姿を引き出したい。←単元の目標の1つ目（教科の目標）を達成するための、本時における目標を書く。

・3段目の歌詞による波のイメージの違いをはっきりするためにつけた強弱を比べるとともに、曲全体のつながりについて目を向けている友だちの意見を聞くことで、自分たちの合唱を見直していこうとする姿を引き出したい。←単元の目標の2つ目（かかわり合いでの子どもの姿）を達成するための、本時における目標を書く。

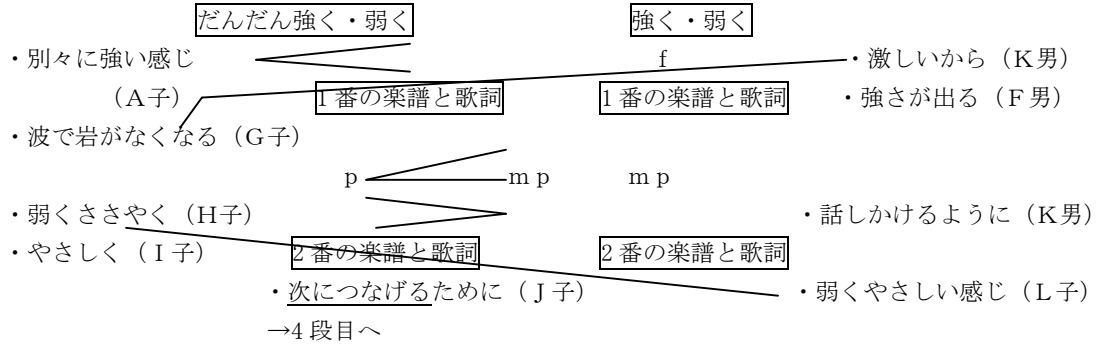
前時の授業で、3段目の歌詞の違いがはっきりわかるようにうたってみようという課題に向き合った子どもたちは、1番の歌詞では「荒い・大きな波」、2番の歌詞では「おだやか・静かな波」という違いを出そうとした。このイメージをもとに3段目を工夫してうたうというひとり調べに取り組んだ。そのなかで、1番、2番ともに、強弱のつけ方で波のイメージの違いを表わそうとする子どもの姿が見られた。←1段落目では、課題を提示した後のひとり調べの様子を簡潔にまとめる。

本時では、ひとり調べによって考えた3段目の波のイメージの違いを歌ではっきり表現するために、「だんだん強く、弱くする」「強く・弱く」に視点をあて、その理由を話し合う。子どもから出た強弱の工夫を音に変えて聞いてみて、自分たちの波のイメージに合う表現をするにはどのように強弱を取り入れ、うたったらよいかを明らかにする。そのうえで、曲全体のつながりについて目を向けている仲間の考えを聞くことで、自分たちの合唱を見直していこうとする姿を引き出したい。このかかわりあいにより、強弱を使った表現の幅が広がり、3段目においてよりはっきりした違いが表れるような合唱にしようとする姿を期待したい。←2段落目では、第1に本時の授業のおおまかな展開を、第2にかかわりあいによって引き出したい子どもの姿を書く。



(2) 展開 ← 板書構成に近い。教師の働きかけを明記する (※)

3段目の歌詞の違いがはっきりわかるように工夫したこと



歌を聞いてみてイメージに近づけているか

・3段目：イメージに近い ・同じ大きさだと4段目につながらない

※「次につなげる」という考えを取りあげ、2つのグループに分けて、聞きあい、「歌を聞いてみて、イメージに近づいているか」と問うことで、曲全体のつながりに目を向け、強弱を見直す姿を引き出した。

↑協同的な学びにより、自分の考えを見つめ直す姿につながる教師の支援を1つ書く

だんだんと強弱をつけるとイメージに合った歌に近づくね。

(3) 評価の観点 ← 各目標に迫ることができたかを何から、どのような観点で判断するのか分かるように書く。

・自分たちの考えた波のイメージに合う表現に迫ろうとすることができたかを、グループでの合唱やかかわりあい前後の学習記録の記述から評価する。 ← 1つめの目標に対する評価を書く

・かかわり合いを通して、自分たちの合唱を見直すことができたかを、「グループの歌を聞いてみてどう思ったかな」という発問後の発言内容やかかわり合い後のひとり調べの合唱から評価する。 ← 2つめの目標に対する評価を書く

十 座席表がA4用紙1枚

#### IV 結論

最初に提示した2つの考え方の妥当性（事前観察の充実と指導案作成の指導）をある程度確認できたのではないかと考えている。